

第200回 定時株主総会

2022年6月23日(木)



古河電気工業株式会社

議事進行

1. 開会

2. 報告事項の報告

3. 議案の上程

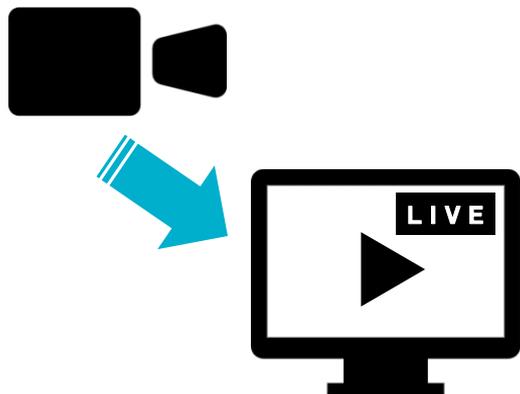
4. 質疑応答

5. 議案の採決

6. 閉会

- 株主の皆様の健康と安全面を最優先に考慮し、円滑、効率的な議事運営に努め、本総会は午前11時頃までに終了することを目途に議事を進めてまいりたいと存じます。
- 役員間の座席間隔を拡げるため、一部の社外取締役および社外監査役は、別室からWeb会議形式により参加しております。

本総会は、インターネットを通じて
株主様限定のライブ配信を行っております。



- 株主様が映り込んでしまう可能性があります。
- ご発言につきましてはインターネットで配信されます。

議決権数の報告

第1号

第200期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)
事業報告、連結計算書類ならびに
会計監査人および監査役会の連結計算書類の
監査結果報告の件

第2号

第200期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)
計算書類報告の件

当期における 主な取組みとその成果

当期における主な取組みとその成果

当期の主な取組み

情報通信分野

■ 生産性改善、コスト低減等

エネルギー分野

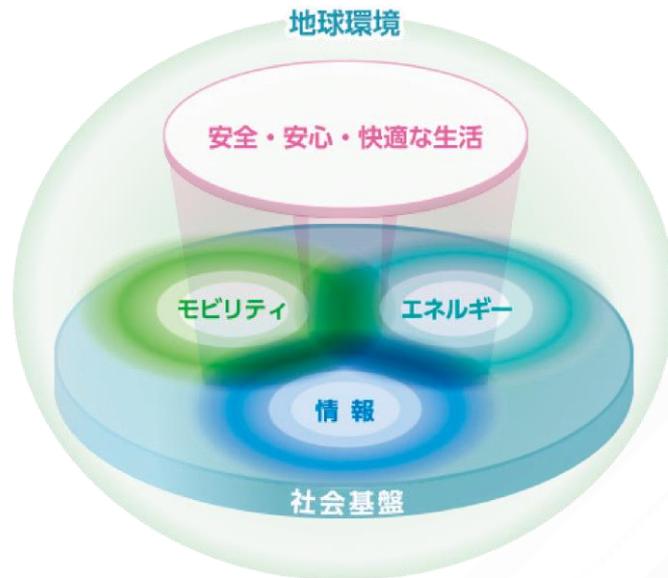
■ 利益確保を重視した
受注活動の推進等

自動車分野

■ 新型コロナによる工場の
稼働率低下への対策等

当期における主な取組みとその成果

当期の主な取組み



古河電工グループ ビジョン2030

当期における主な取組みとその成果

当期の主な取組み

新中期経営計画に向けた基盤づくり

- 環境変化を先取りした事業の変革
- 新事業の立上げ・育成
- 資本効率を重視した経営の強化

当期における主な取組みとその成果

当期の業績（売上）

- 情報通信ソリューション事業
 - ▶ 北米での
光ファイバケーブルの
販売の増加等



前期の落ち込みから回復

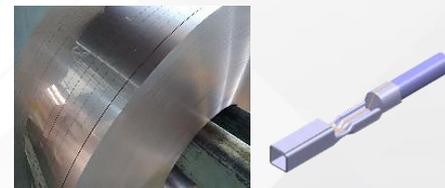
当期における主な取組みとその成果

当期の業績（売上）

- 電装エレクトロニクス材料事業
 - ▶ 車載、エレクトロニクス関連製品の堅調な需要
 - ▶ 銅地金価格高騰の影響



ワイヤハーネス向導体(銅・アルミ)



防食 (α)端子用Snめっき条

グループ全体の売上増加

当期における主な取組みとその成果

当期の業績（損益）

- 品種構成の改善等を推進
- 原材料価格や輸送費の高騰等

前期比では改善したものの限定的

当期の業績について

連結損益計算書（単位：億円）

連結売上高

8,116

9,305

前期比

14.6% ↑

前期

当期

連結営業利益

84

114

前期比

35.6% ↑

前期

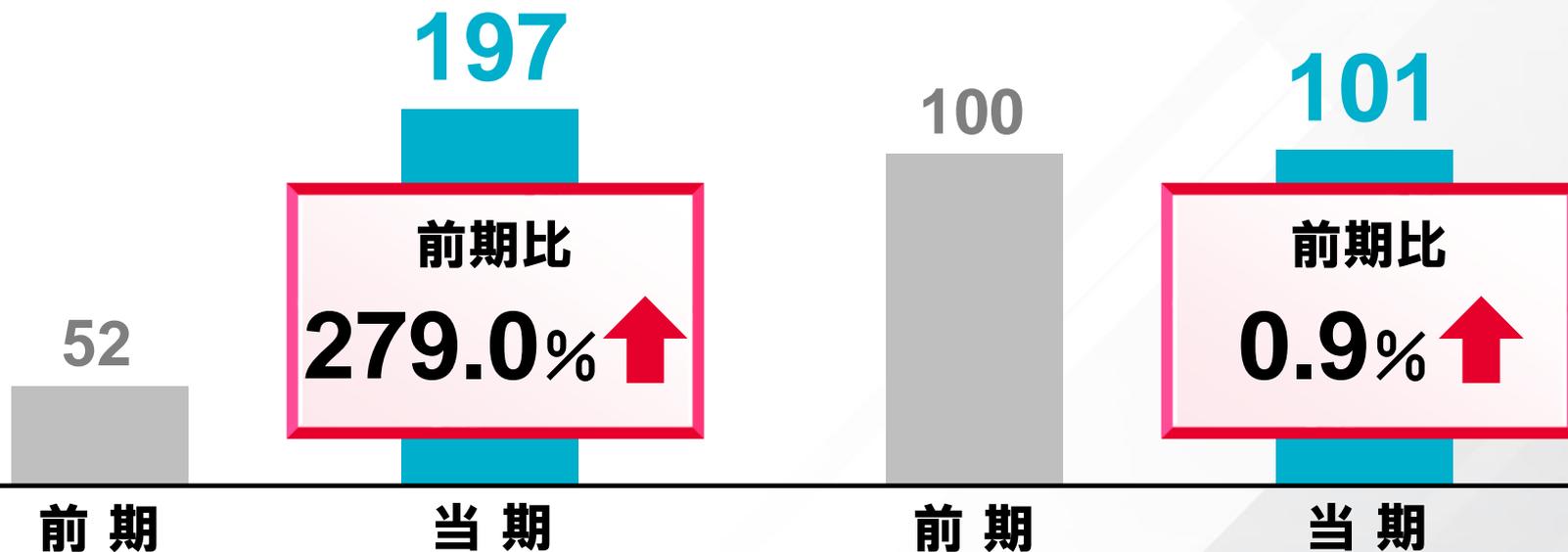
当期

当期の業績について

連結損益計算書（単位：億円）

連結経常利益

親会社株主に帰属する当期純利益



連結および単体の 貸借対照表および損益計算書

招集ご通知55ページ～58ページに記載のとおり

連結および単体の 株主資本等変動計算書および注記表

当社ホームページに掲載

対処すべき課題

対処すべき課題

当社グループ

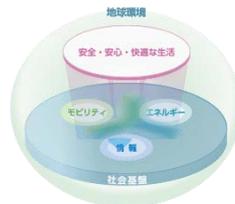
基本理念

世紀を超えて培ってきた素材力を核として、絶え間ない技術革新により、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

持続可能な開発目標
(SDGs)

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

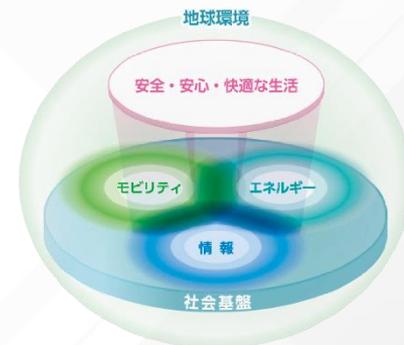
古河電工グループビジョン2030



対処すべき課題

古河電工グループ ビジョン2030

- 情報、エネルギー、モビリティの各領域およびこれらの融合領域
- 新領域



古河電工グループ ビジョン2030

社会課題の解決を目指す

対処すべき課題

経営上の重要課題

収益機会のマテリアリティ

- 1** 社会課題解決型事業の創出
— 次世代インフラを支える事業の創出
— 環境配慮事業の創出
- 2** Open, Agile, Innovative
- 3** 多様なステークホルダーとのパートナーシップの形成

リスクのマテリアリティ

- E** 気候変動に配慮したビジネス活動の展開
 - S** 人材・組織実行力の強化
 - G** リスク管理強化に向けたガバナンス体制の構築
— コーポレートガバナンス
— グループガバナンス
— サプライチェーンマネジメント
- 人権・労働慣行

ビジョン2030・SDGsの達成

対処すべき課題

FURUKAWA
ELECTRIC

新中期経営計画「Road to Vision 2030」



対処すべき課題

新中期経営計画（当社を取り巻く経営環境）

- ESG・SDGsが欠かせない経営課題に
- 新たなライフスタイルの広がり
- 国内市場の縮小
- DXの急速な進展



対処すべき課題

新中期経営計画（当社を取り巻く経営環境）

- Beyond5Gの実現
- カーボンニュートラルの実現
- 次世代インフラの実現
- 健康寿命延伸の実現
- サーキュラー・エコノミーの実現



社会課題解決の期待がより高まる

対処すべき課題

新中期経営計画

- 情報、エネルギー、モビリティの各領域、融合領域の社会課題解決型事業の強化・創出

収益の拡大に向けた取組み

対処すべき課題

新中期経営計画

- ① 資本効率重視による既存事業の収益最大化
- ② 開発力・提案力の強化による新事業創出に向けた基盤整備
- ③ ESG経営の基盤強化

対処すべき課題

① 資本効率重視による既存事業の収益最大化

- 投資配分の最適化の一層の推進
- 資本効率性をより高めるための施策の実施



グループ全体での収益の改善・拡大

対処すべき課題

① 資本効率重視による既存事業の収益最大化

事業環境の変化に迅速かつ柔軟に対応

- 収益性・成長性などの観点から事業の位置付けを定め
 - ▶ 経営資源の配分を決定



事業ポートフォリオの最適化を図る

対処すべき課題

① 資本効率重視による既存事業の収益最大化

- 低採算製品の縮小、高付加価値製品への注力
- 原価低減の推進
- 製品の収益力向上
- 生産技術向上に基づく効率化
- 製品供給能力の強化

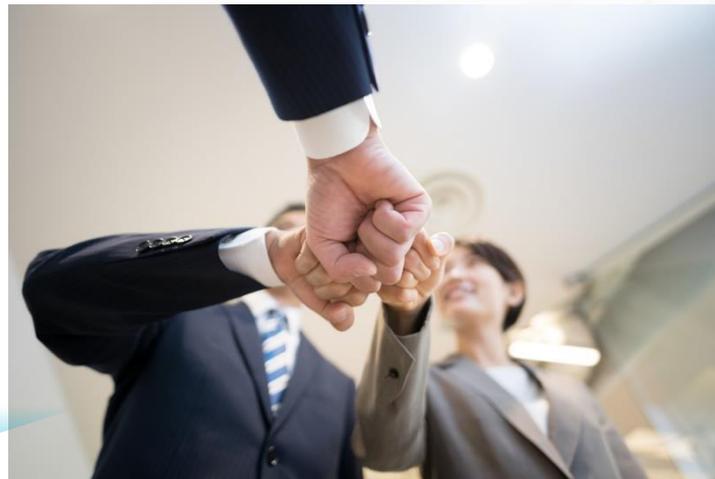


「稼ぐ力の最大化」を図る

対処すべき課題

② 開発力・提案力の強化による新事業創出に向けた基盤整備

- グループの枠を超えた外部パートナーとの共創による互いの有する技術やアイデア等の掛け合わせ



新事業創出に向けた基盤整備の推進

対処すべき課題

② 開発力・提案力の強化による新事業創出に向けた基盤整備

- 製品競争力の向上によるモノづくりの強化
- デジタル技術やデータの利活用を推進し、課題解決を起点とした製品・サービスを開発・提供



新たな提供価値の創造を目指す

対処すべき課題

③ ESG経営の基盤強化

- 環境の変化に迅速かつ柔軟に対応する力の強化への取組み

持続的に成長する企業への変革の実現

- サステナビリティ指標・目標値の設定
 - ▶ 企業経営の中核にESG要素の取込み

③ ESG経営の基盤強化

- コーポレート機能の強化への取組み



事業の成長・変革を下支えする
経営基盤の構築を図る

新中期経営計画 財務目標

■ 2025年度の財務目標値

ROIC	6.0%以上
ROE	11%以上
Net D/Eレシオ	0.8以下
自己資本比率	35%以上
連結売上高	1.1兆円以上
連結営業利益	580億円以上
親会社株主に帰属する当期純利益	370億円以上

対処すべき課題

FURUKAWA
ELECTRIC

新中期経営計画 サステナビリティ指標・目標

財務目標
サステナビリティ目標

企業価値向上に向けた取組みを実施、
これらの目標達成を図る

対処すべき課題

FURUKAWA
ELECTRIC

新中期経営計画

各種施策の着実な実行

企業価値の向上を図る